

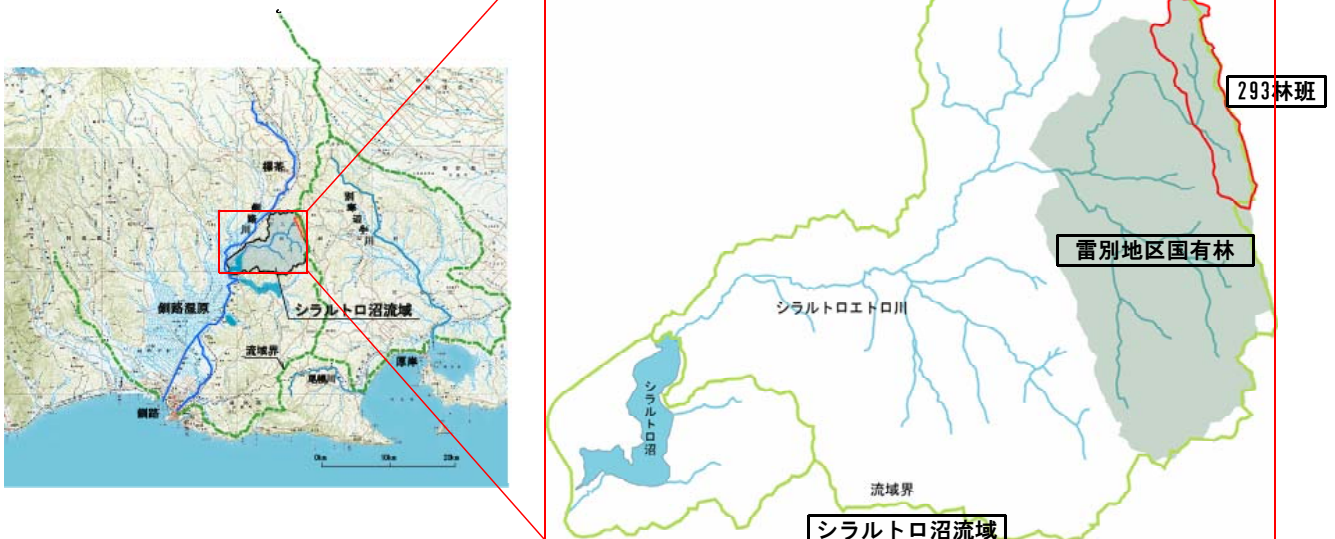
＜釧路湿原自然再生事業：雷別地区自然再生事業実施計画の概要＞

1. 実施主体

林野庁北海道森林管理局（釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター）

2. 自然再生の対象となる区域

釧路湿原の北側に位置するシラルトロ沼流域上流部の雷別地区国有林293林班を中心とした区域。



3. 自然再生事業の実施内容

(1) 森林の現況

雷別地区国有林293林班周辺の70年生を超えるトドマツ人工林が、平成12年に立枯の被害（気象害）に遭い、疎林又は無立木状態にある。



293林班の現況（トドマツ立枯被害地）

(2) 目的

シラルトロ沼流域上流の森林の水土保全機能を高めるため、トドマツ林の気象害跡地で笹地となっている箇所を対象に森林再生を行う。

(3) 事業実施計画

① 森林再生の目標

郷土樹種（近隣の天然林試験地や雷別地区内天然林の調査結果等からミズナラ、カシワ、ハルニレ、ヤチダモ等）による森林を目標とする。

② 手法

保全、天然更新、人工植栽を組み合わせる行う。

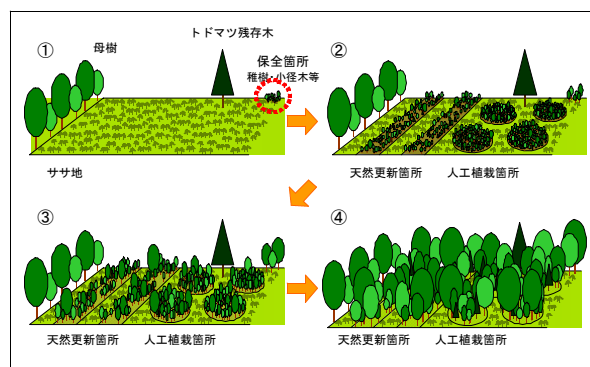
(4) その他

① モニタリング

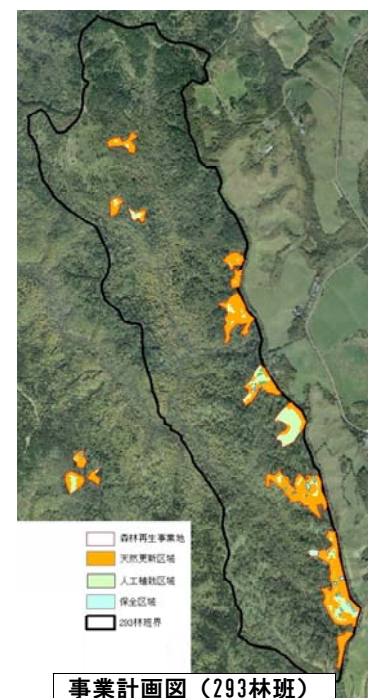
森林再生の主目的である森林の再生状況と森林再生に伴う自然環境及び水土保全機能の変化について行う。

② 市民参加

森林再生に伴う各種作業で、市民参加が可能なものについては、市民の参加の下に行うように努める。また、森林環境教育のフィールドとして活用する。



手法と森林再生の推移イメージ



事業計画図（293林班）